

すまいる

きづ川

冬号

理事長からのご挨拶

西年スタッフ インタビュー

城陽名所めぐり

久世の鷺坂 万葉歌めぐり

啓信会グループのご紹介

在宅サービス部門

病院食あれこれ

旬の素材 大根

パートナー医院を紹介します

林 医院 内科・麻酔科・整形外科

2004年のイベント報告

京都きづ川病院文化月間行事

健康まつり 文化講演会



理事長からのご挨拶

新春雑感

医療法人啓信会
理事長 中野博美



新年明けましておめでとぅございませう。

例年になく暖かな冬のため、暦を見ても今ひとつ実感のわかないお正月という感覚なのは私奴だけではありませんか。

さて私ども京都きづ川病院では、昨年1年かけてリエン病棟増築、本館リニューアルが行われました。本館は156床の一般急性期病床としてリニューアルされ、病室はすべて4床以下、1床当たり約10平方メートルの広く機能的なものに変わりました。また新しいリエン病棟は157床の療養病床があり、今後リハビリテーション病棟に進化の予定です。両病棟が連携する

ことで、短期間で治療・機能回復をして帰宅して頂けるようになると考えています。さらに今回の改装で、本館に専用の感染症病床が6床導入されました。今まで当山城北医療圏には同病床は無く、当該感染症に罹ると他の地域での治療を余儀なくされてきました。残念ながらSARS等には対応していませんが、今後は多くの感染症が地元で治療できるようになりました。さて我々病院とは、入院患者様にとつては居住施設でもあり、外来患者様にとつては健康情報センターでもあるでしょう。患う人が病院を訪れることで安心をされ、健康な人は病院がある

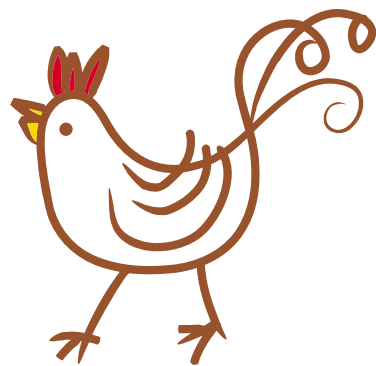
ことでより健康で幸せになれるような「健康の拠点」ともいふべき存在であるはずで、地域において病院は他の医療施設とも連携を深くし、地域として一体的な医療システムを作ること、「治療の拠点」からさらに広く「健康の拠点」としての仕事をしなくてはいけないと考えています。ただ、京都きづ川病院が地域に馴染んだ病院として認めていただくには、まだまだ努力が足りないのではと自問しているところです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

酉年スナップ にインタビュー!

2005年もがんばります!!

酉年生まれのスタッフが新しい年に向けて抱負を語ってくれました。



自分を元気に、周りも元気に

外来/看護師 梶原 智美

2005年は、勤続10年の節目の年にあたり、原点に戻って仕事に取り組みたいと考えています。女性としては、心と体のバランスが微妙になり始める時期にきています。「自分」とうまく付き合いながら元気に、そして周りも元気にしていけたら……。また、プライベートでは、愛犬の2世誕生のサポートにがんばりま〜す。



変化の中でセクションも自分も成長

臨床検査科/臨床検査技師 高原 寿富

京都きづ川病院に勤務して5年が過ぎました。振り返ってみるとこの5年間はきづ川クリニックの新設や、リエゾン病棟の増築、電子カルテの導入など、病院そのものに大きな変化が訪れた時期でした。特に電子カルテの導入は検査科に大きく影響し、最初は戸惑うことばかりでしたが、ようやく落ち着いてきました。今後は今まで以上に他部署との連携を緊密にし、検査科が組織の中の1セクションとしてその機能を発揮できるように取り組んでいきたいと思っています。



初心に戻って技術と知識に磨きを

臨床検査科/臨床検査技師 加藤 寛之

臨床検査技師になり、京都きづ川病院に勤務してから10年の歳月が流れました。この長いようで短い10年を振り返ると、日常業務に追われる毎日で、目の前の業務をこなすだけで精一杯。専門知識の練磨を忘れていたようです。2005年は酉年で年男。初心に戻り、気持ちを一新して技術と知識のブラッシュアップを目標としたいです。「少年老い易く学成り難し」「一寸の光陰軽んずべからず」



健康に注意する歳になりました

医療事務入院課/事務員 山田 誠

26歳で京都きづ川病院に就職し約10年、今年は年男で36歳になります。昔は痩せていて、ご飯もろくに食べられないくらいでしたが、最近みなさんに「太ったね」と言われるようになり、両親まで「食べすぎだから食べる量を減らせ」なんて言うのです。確かに10代や20代の頃と比べて、食欲だけでなくいろいろなことに我慢が効かなくなっているようです。「若い時はどんなことでも耐えることができるが、歳を取るとだんだんそれができなくなる」。これは昔、父から言われた言葉ですが、今、実感しています。病院で仕事をしているという立場からも、健康により注意すべき歳になったのではないと思う、今日この頃です。



患者さんの笑顔が見たくて…

医療事務外来課/事務員 岩井 由加里

学生時代、私にはどんな職業が合っているのかといういろいろ悩みました。そんな時、いところ病院の受付で患者さんたちに接している姿を見ました。それから病院での仕事に関心をもち始め、資格を取りました。実際に病院で働くようになって、患者さんたちと接している時や、笑顔で「ありがとう」と言ってもらえた時には、この仕事に就いて本当によかったなと思います。そして、患者さんたちにも京都きづ川病院に来てよかったと思ってもらいたいですね。まだまだ経験は浅いですが、一日一日の仕事を大切に、早く先輩方に追いつけるように努力していきたいと思っています。



いつも笑顔でよりよい看護を

3階南病棟/看護師 北畑 友佳子

毎日忙しい勤務の中で、業務に追われがちですが、いつでも笑顔を保ち患者さんに接することを心がけ、またよりよい看護が提供できるよう、知識をより深めていきたいです。





柿本人麻呂の歌碑



「久世の鷺坂」といわれる
久世神社東側の坂道



久世神社境内

かき の も と の ひ と ま ろ
柿本人麻呂が
詠んだ坂道

「久世の鷺坂」

城陽市久世芝ヶ原の久世神社。この東側にあるゆるやかな坂道が、万葉集に歌われた「鷺坂」と伝えられ、柿本人麻呂の歌碑が建てられています。

山背の久世の鷺坂 神代より
春は萌りつつ 秋は散りけり (巻九ノ一七〇七七)

万葉集ばかりでなく日本文学史において代表的歌人である柿本人麻呂。飛鳥時代の天武朝から活動を始め、宮廷歌人として活発に公の場でも歌を詠むようになったのは持統朝からといわれています。平安時代にはすでに「歌聖」と呼ばれた伝説の歌人でした。

万葉集には、山城や鷺坂にまつわる歌は全部で六首あります。城陽市には「鷺坂」ではないかとされる場所はほかにもあり、古代のロマンに想像がふくらみます。

山背の久世の社の草な手折りそ
我が時と立ち栄ゆとも草な手折りそ (巻七ノ二八六)

白鳥の鷺坂山の松陰に
宿りて行かな夜も深け行くを (巻九ノ一六八七)

たくひれの鷺坂山の白つづじ
我ににははね妹に示さむ (巻九ノ一六九四)

山背の久世の若子が欲しと言ふ我
あふさわに我を欲しと言ふ山背の久世 (巻十一ノ三六二)

玉久世の清き河原に身裸して
齋ふ命は妹がためこそ (巻十一ノ二四〇三)

次世代に語り継ぎたい歴史

11月3日(文化の日)に行われた「JOYO 産業まつり」では、古代の久世や鷺坂に思いを馳せ、城陽市の豊かき・美しさを将来に継承していきたいとの願いを込め、「ふるさとを歌う〜万葉の風にのせて〜」と題して市民や万葉合唱団による演奏が披露されました。

「城陽の梅やしき 盆梅展」のお知らせ

城陽市観音堂在住の倉田雅彦さんが所有する数多くの盆梅は、早春の風物詩として毎年注目を集めています。その中には樹齢400年にもおよぶ盆梅もあるとか。今回は倉田さんの協力を得て、観光協会との共催事業として盆梅展を実施することになりました。

- ◆会場 城陽市観音堂 倉田雅彦氏邸内
- ◆期間 平成17年1月10日(月)~3月10日(木)
- ◆問合先 城陽市観光協会
- ◆電話 0774-56-4029



啓信会グループのご紹介

在宅サービス部門



訪問看護ステーション「萌木の村」スタッフ

チームアプローチを大切に！

患者さまが満足して療養生活を送り、より健康になってくださる。私たちの大きな願いです。とりわけ在宅療養は施設利用の場合と異なり、患者さまを取り巻く環境も、また得ていたく満足感も千差万別。私たちはより柔軟な姿勢で患者さまに接するよう心がけています。

在宅療養を続けていくためには、ご家族の理解と協力が不可欠。まずはご家族と十分なコミュニケーションを図ることから始めます。ところが、核家族化が進んだ現在、要介護状態なのに独り暮らしであったり、同居家族の方も高齢であったりなど、状況は多様化・深刻化しています。

啓信会グループ在宅サービス部門では、専門スタッフがチームを組む、在宅サービスの提供を行います。在宅療養の形は、家族の介護協力の有無やご本人の心身の状態などによって異なります。どのような状況にも臨機応変に対応できるよう、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、ケアマネージャーがひとつのチームとなり、患者さまばかりでなくご家族の方々にも満足していただくよう、誠意を持って取り組んでいます。



訪問看護ステーション「きづ川はろー」スタッフ

いろいろあります 啓信会の在宅サービス

訪問診療：

外来通院の困難な療養中の方を、1か月に1～2回程度、医師が訪問し診察します。訪問看護、訪問介護と連携します。

⇒★きづ川クリニック(平成14年4月開設)

訪問看護：

医師の指示に基づいて看護師が療養上のお世話・診療の補助を行います。また啓信会グループには、理学療法士による訪問リハビリのサービスもあり、自宅で機能訓練ができます。

⇒【訪問看護ステーション】

★きづ川はろー(平成10年12月開設)

★萌木の村(平成12年1月開設)

訪問介護：

ホームヘルパーが介護や身の回りのお世話をを行います。

⇒【ヘルパーステーション】

★萌木の村21(平成11年1月開設)



リハビリが効いて 歩けるようになりました

城陽市在住
山下 スミ子さん(81歳)

5年ほど前から寝たきりで、このまま一生、車椅子の生活かと思っていました。昨年、肝硬変で入院し、今年3月に退院して以来きづ川クリニックの訪問診療を受けていますが、診察された先生が「これならリハビリで歩けるようになりますよ」とおっしゃったのです。半信半疑でしたが、先生に励まされて週1回のリハビリを始めました。「もう一度自分の足で歩きたい」という一念が通じたのか、やがて立ち上がれるようになり、そしてとうとう、短い距離ながら家のまわりを歩けるまで回復したのです。あの先生の言葉がなかったら、今でも寝たきりだったでしょう。本当に感謝しています。

声

患者さんに聞きました

「きづ川」のおかげです



夫婦の健康管理は 「きづ川」におまかせ

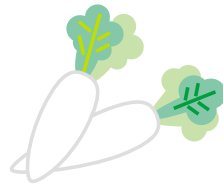
城陽市在住
高宮 治夫さん(88歳)・幸子さん(88歳)ご夫妻

夫婦ともども、京都きづ川病院には若い頃からお世話になっています。現在は月1回の訪問診療と週1回の訪問看護を受けているのですが、ヘルパーさんの細やかな心遣いや、「かゆいところに手が届く」対応にはいつも感心しています。訪問診療に来られる先生とは長いお付き合いで、まさに気心の知れた関係。簡単な診療と施薬をしてくださるのですが、月1回といえど先生の訪問は私たち老夫婦にとって大きな安心です。妻は病弱なものですから買い物は私の役目。この年になっても元気で、趣味の園芸や、酒好きが高じての果実酒づくりに興じることができるのは、京都きづ川病院のおかげです。



● 病院食 あれこれ

寒くなってきました。霜がおり始めたら
おいしくなる大根。鍋物や煮物がおいしい季節です。



【旬の素材】大根

『日本書紀』にも登場する大根

中国から伝わり、奈良時代にすでに栽培されていた大根。室町時代になると庶民の間でも幅広く食べられるようになりました。「すずしろ」という名で、春の七草の一つとしてもおなじみです。

買う時は、葉つき大根を選びましょう。葉っぱが青々としていて、根の部分は色が白くつやがあり、ずしりと重みのあるものを選びます。葉を切つてあるものなら、切り口が変色していたり、空洞があつたり、新芽が出たりしているものは避けましょう。

大根は部分によって賢く使い分けたいもの。葉っぱに近い部分は辛みが少ないので、千切りにしてサラダや甘いおろしに。しっぽの部分は辛みが強いので、辛いおろしが合う焼き魚やそばに使います。真ん中の部分は甘みが強いのでふろふきやおでんの煮物に最適。また、緑黄色野菜である葉っぱは、おひたしや煮物、炒め物、漬け物、味噌汁の具としていただけます。

〈おろしかた〉 「辛いおろし」…大根のしっぽのほうを皮ごと力強く一直線におろします。「甘いおろし」…葉に近いほうを優しく円を描くようにおろします。

脂肪分解にも役に立つ！

刺身のツマも、飾りだけにしておく手はありません。魚のおいしさを引き立て、殺菌効果もあり、魚の脂肪分の分解も手伝ってくれますから、ぜひいただきましょう。

今、生産量の95%を占めるのは青首大根。小ぶりでもどんな調理法にもあう品種です。地大根としては、東京の練馬大根、長野の辛味大根、岐阜の世界一長い守口大根、鹿児島の世界一大きい桜島大根などがあります。京都では聖護院大根。「千枚漬け」で有名です。



柳川風、大根のゆかり和え、柿

「ある日」
のメニュー

◆ 管理栄養士 山田珠子

林 医院 内科・麻酔科・整形外科

京都府城陽市寺田高田40 TEL.0774-56-6441

平成5年に父親の後に
継ぎ、以来10年余り。
地域と密接に関わりな
がら医療活動が続ける
林医院・林弘規先生を
紹介します。



院長 林 弘規先生

「職員たちには、どの部署であれ患者さんと心の通う温かい対応ができる医療機関になるう、と話しています」

スペシャリストより ジェネラリストを目指したい

患者さんにとって「痛み」は何より辛い大きな問題です。その痛みを少しでも軽くしてあげたいという気持ちが医学を志した理由のひとつ。とはいえ、先生はこれまで外科や皮膚科、スポーツ医学など他の専門分野の勉強が続けられ、医療の幅広いフィールドで患者さんと接しておられます。「地域の医療機関は、間口は広く敷居は低くして多くの患者さんを受け入れることが大切です。専門外だから他の病院へ行ってくださいというわけにはいきません。だから私はスペシャリストよ

パートナー医院を紹介します

りもジェネラリストを目指し、地域の多くの人々のニーズに応えていきたい」と林先生。

一年365日。24時間態勢でフル稼働

そのお仕事ぶりとはとにかくパワフルでバイタリティに溢れています。朝夕の診療時間の間には患者さんの往診、スポーツドクターの資格を生かして西城陽高校での教鞭、さらに地域の会社の企業医として、検査等で問題発生した社員さんへのフォローアップ。また、夜間や休診日なども急変した患者さんの対応で休む暇もない忙しさです。「私のような開業医が地域の人々に貢献できることはこのようなことしかありません。体力の続く限り活動させてもらいますよ」と頼もしい言葉。

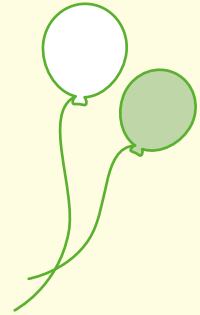
「きづ川病院さんとのお付き合いは、私がここで開業して以来。患者さんの緊急事態やMRI、CTなどの検査、在宅患者さんの急変時の受け入れなど大変お世話になっています。このバックアップがあることで、私も患者さんにも本当にありがたいし、安心できます」と語っていただきました。

2004年のイベント報告

京都きづ川病院 11月文化月間行事

健康まつり

京都きづ川病院では、11月を文化月間として「健康まつり」を開催、さまざまな催しを行いました。ここでは、京都きづ川病院の1階フロアを会場に開かれた「健康まつり」（11月14日）の様子をご紹介します。



城陽救急救命士による救急救命講習会。
熱心に聞き入る参加者のみなさん



人形を使って救命処置にチャレンジ



健康測定コーナーにて



お茶席&模擬店。京都きづ川病院茶道部
による本格的なおもてなし



壁画落書大会!
真剣に描く子どもたち



写真コンテスト応募作品は待合室に
展示されました

文化講演会

期間中行事のひとつとして、11月7日には京都ホテルオークラにて文化講演会が開催されました。まず、講師に元厚生大臣で衆議院議員の丹羽雄哉氏を迎え、「年金改革の検証と提言」と題する基調講演。そのあと「これからの医療と介護を考える」というテーマでフォーラムが行われ、丹羽氏のほか（医）清水会理事長の清水鴻一郎氏、京都府議会議員の奥田敏晴氏による活発な意見交換がなされました。当日、会場には定員数（200名）をはるかに超える参加者が集まり、熱心に耳を傾けました。



講演する丹羽雄哉氏

謹賀新年

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

医療法人啓信会

理事長 中野博美

京都きづ川病院

院長 川村恒博

京都四条病院

院長 中野昌彦

きづ川クリニック

院長 鯉江久昭

老人保健施設 萌木の村

施設長 大隈喜代志

訪問看護ステーション きづ川はろー

所長 水落美智子

訪問看護ステーション 萌木の村

所長 崎谷小織

ヘルパーステーション 萌木の村21

所長 矢木和代

在宅支援センター 萌木の村

センター長 木原章子

ヘルパーステーション リエゾン 大津

所長 小林裕美子

居宅介護支援事業所 リエゾン 大津

所長 小林裕美子

ヘルパースクール 萌木の村

ヘルパースクール 萌木の村 大久保校

ヘルパースクール 萌木の村 大津校



最良の医療サービスを提供するために、皆さんからのご意見をお待ちしております。
医療に関する疑問、質問など、お気軽にお寄せください。

啓信会グループ

京都四条病院 きづ川クリニック 老健施設 萌木の村 訪問看護ステーション きづ川はろー
訪問看護ステーション 萌木の村 ヘルパーステーション 萌木の村21 ヘルパースクール 萌木の村



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

診療科目 内科・循環器科・消化器科・神経内科・放射線科・小児科・外科・
肛門科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・皮膚科・形成外科・
麻酔科・リウマチ科・リハビリテーション科

受付時間 午前診 午前8時30分～午前11時45分
夜診 午後5時～午後7時30分

*土曜夜診、日・祝は休診 *内科系はきづ川クリニックにて診療

〒610-0101 城陽市平川西六反26-1 ☎0774-54-1111 FAX 0774-54-1119



近鉄京都線「久津川」駅から徒歩15分
近鉄京都線「大久保」駅からタクシー10分